

Resident Concert vol.16

Saxophone Plays Piazzolla

生誕101年 ピアソラに愛をこめて

2022.3.20 (日)

開場 16:30
開演 17:00

金沢市民芸術村
パフォーミングスクエア

●出演

角口圭都 (Soprano Saxophone)
2021年度金沢市民芸術村レジデント・アーティスト

完戸吉由希 (Alto Saxophone)

田中麻樹子 (Tenor Saxophone)

塩塚純 (Baritone Saxophone)

弘中佑子 (Piano)

●ゲスト

北井千都代 (Dance)

生水敬一朗 (Bandoneon)

ジドレ・ヴァイオリン

(Violin・Zydrė Ovsiukaite)

2021年度金沢市民芸術村レジデント・アーティスト

●1部

1. Chau Paris (チャオ パリ)

2. Ave Maria (アヴェ マリア)

3. Violentango (ヴィオレンタンゴ)

4. Decarisimo (デカリシモ)

5. Fuga y Misterio (フーガとミステリオ「ブエノスアイレスのマリア」より)

6. Allegro Tangabile (アレグロタンガビレ「ブエノスアイレスのマリア」より)

7. Yo Soy Maria (私はマリア「ブエノスアイレスのマリア」より)

●2部 ~ゲストをお迎えて~

8. Los Sueños (夢)

9. Escualo (鯨)

10. Oblivion (忘却)

11. Vayamos al Diablo (悪魔をやっつける)

12. Milonga del Ángel (天使のミロンガ)

13. La Muerte del Ángel (天使の死)

14. Michelangelo '70 (ミケランジェロ'70)

15. Adiós Nonino (アディオス ノニーノ)

16. Libertango (リベルタンゴ)

公演チケット 一般 2500円 / 高校生以下 1000円 (全席自由)

金沢市民芸術村

HP(ご予約)

<https://www.geimura.com/music/resi-con16/>

事務局

TEL: 076-265-8300

FAX: 076-265-8301

主催: 金沢市民芸術村アクションプラン実行委員会

共催: 金沢市、(公財)金沢芸術創造財団

協力: K-CUBIC、ぱふおくる、金沢舞台

後援: 北國新聞社、北陸中日新聞、石川テレビ、北陸放送、北陸朝日放送、テレビ金沢、エフエム石川

Kanazawa Citizen's Art Center
金沢市民芸術村

PIT4 ● ミュージック工房



公演チケットのご予約
ご購入・お問い合わせ

Saxophone Plays Piazzolla

生誕101年 ピアソラに愛をこめて

アルゼンチン生まれの音楽家・

バンドネオン奏者として、

音楽に人生をかけたアストル・ピアソラ。

「タンゴの異端児」と呼ばれながらも、

その情熱的で独創性のある演奏と楽曲は、

今や世界中で熱狂的に支持され、

揺るがぬ人気を得ています。

ピアソラの音楽とサクソフォンとの融合は

新たな熱狂の世界へと私たちを導くでしょう。

サクソフォンアンサンブルの重厚で

輝かしいサウンドに加え、

ヴァイオリン、バンドネオン、

ダンスで生み出す

ピアソラの世界をお楽しみ下さい。

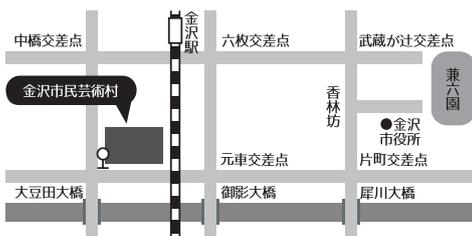
Kanazawa Citizen's Art Center

金沢市民芸術村

〒920-0046 石川県金沢市大和町1-1

TEL:076-265-8300 FAX:076-265-8301

<https://www.geimura.com/music/resi-con16>



金沢市民芸術村へのアクセス

・金沢駅よりJR線高架に沿って徒歩10分

・北鉄バス「武蔵ヶ辻・近江町市場」発

「香林坊」経由「新金沢郵便局」行「大豆田」バス停下車 徒歩5分

※本数が限られているため、予めご確認の上ご利用ください。



※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染状況等により、予告なしに内容・会場・日程・時間・定員等が変更または中止となる場合があります。※ご来場される方は、

37.5度以上の発熱や風邪、味覚障害等の症状があるなど体調が優れない場合のご参加はご遠慮いただき、マスクの着用、手洗い、手指の消毒、社会的距離の確保などをお願いします。※予防対策として、出演者、スタッフは、マスクを着用し、会場には消毒液を設置いたします。※「換気の悪い空間」「多数が密集する場所」「近距離での会話や発声が行われる場面」を避けた運営を行います。皆様のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

出演



角口圭都 (Soprano Saxophone) 2021年度金沢市民芸術村レジデント・アーティスト

富山県出身。9歳よりサクソフォンをはじめ、東京芸術大学・同大学大学院音楽研究科を卒業。第9回北陸新人登竜門コンサートにて優秀賞を受賞。井上道義指揮オーケストラアンサンブル金沢と共演。第28回日本管打楽器コンクール第3位。第9回ルーマニア音楽コンクール第一位。富山県新人演奏会にて優秀賞を受賞。現在フリーランスとして吹奏楽、オーケストラ、ユニット、レコーディングなど様々なシーンで活躍。またサクソフォン・吹奏楽の指導者としても活動している。東京シティプラスオルケスター木管トレーナー。「TOYSPARK」、「由都景」各メンバー。ケイト・ミュージックを主宰し、様々なコンサート企画も行っている。クラシック専門インターネットラジオOTTAVAプレゼンター。専門誌『TheSAX』にて連載中。2019年初ソロアルバム「Chau Paris」、2021年2ndアルバム「ロマンス」をリリース。



完戸吉由希 (Alto Saxophone)

福島県原町市出身。昭和音楽大学を特別賞で卒業、同大学院修了。昭和音楽大学より給費特待研修生として渡仏、ヴェルサイユ音楽院を最優秀の成績で卒業。国内外のコンクールに入選歴多数の他、様々な新人デビューコンサートに推薦を受け出演。ソリストとして、外山雄三指揮・仙台フィルハーモニー管弦楽団をはじめ昭和音楽大学オーケストラ、いわき交響楽団、他多数のアンサンブル・オーケストラ団体等と協演。現在フリー演奏家として活動、多くのアーティストと共演。リサイタルをパリ、南相馬、東京、大阪、川崎において開催し好評を博す。アルバム「Le Chemin」(2019年8月)は『レコード芸術』誌準特選盤に。吹奏楽指導の分野では定評がある。フリメゾン・ウインドオーケストラ主宰。SSDoffice代表(Mail:office.ssd@gmail.com)



田中麻樹子 (Tenor Saxophone)

神奈川県三浦市出身。東京芸術大学卒業。Saxophone Quartet 桜 テナーサクソフォン奏者として、第5回ルーマニア国際音楽コンクール室内楽部門第2位、特別賞としてルーマニア音楽協会理事会賞を受賞。2010年度(一財)地域創造公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業・京都セッションフォーラムアーティスト。2013年韓国ソウル大学に招かれ、マスタークラスとコンサートを行う。2015年ファーストアルバム「桜のうた」を発売。2017年逗子文化プラザなぎさホールにてソロリサイタルを開催。現在、ソロ、室内楽、国内主要オーケストラのサクソフォン奏者として公演、録音、TV収録等に多数参加している。これまでにサクソフォンを富岡和男氏、須川展也氏、ジャズサクソフォンを浜崎航氏、室内楽を中村均一の各氏に師事。



塩塚純 (Baritone Saxophone)

洗足学園音楽大学、東京芸術大学別科を経て、同大学院を修了。サクソフォンを福島正和、二宮和弘、貝沼拓実、大城正司、大石将紀、須川展也の各氏に、室内楽を二宮和弘、貝沼拓実、池上政人、大城正司、有村純親、須川展也の各氏に師事。サクソコール、SDGs吹奏楽団(JICA東京 地域国際協力サポーター)メンバー。多くのCD作品があるが、サクソコールの1st Album「Russian Master Pieces」(Florestan)は『レコード芸術』6月号にてレコード芸術特選盤に選出される。今冬、発売の2nd Albumとともに、8人とは思えない重厚なサウンドに驚愕の声が続出している。また日本を代表する劇伴作家、平野義久氏監督「Sur-Saxophonism」(299 MUSIC)に参加、サクソフォン奏者4人の限界を引き出すアルバムとして、好評を博す。現在はフリーのサクソフォン奏者として活動中。



弘中佑子 (Piano)

東京芸術大学を経て、同大学院修了。学内に同声会賞受賞。在学中渡仏、パリ・スコラカントルム音楽院修了、モーリス・ラヴェル音楽院伴奏科を満場一致で修了。第25回市川新人演奏家コンクールピアノ部門最優秀賞。第19回オビドス国際ピアノマスタークラスにて、ポルトガルのAntena 2及びACIM賞受賞。第26回カントゥ国際ピアノコンクール、セミファイナリスト。第3回スペイン音楽国際コンクール第2位、スペイン大使賞受賞。ザルツブルク・モーツァルト国際室内楽コンクール 2019 in Tokyo 第2位。藝大フィルハーモニア・ルーマニア Mihail Jora フィルハーモニアと共演。現在、東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校非常勤講師。

ゲスト



北井千都代 (Dance)

幼少より金沢市の中村祐子に師事。東京では石井かほるを始め、多くの作家の作品に出演。文化庁派遣芸術家在外研修員としてパリで1年間学ぶ。その後、地元金沢に戻り後進の指導の傍ら自身の活動を続け、言葉に出来ない事を身体で表現する可能性を追求している。その一環として、文化庁助成新進芸術家公演を金沢市民芸術村で4日間上演し、自らプロデュースするダンス公演dancExistを継続する他、ミュージシャンや朗読家とのコラボレーションなど積極的に活動を続けている。現代舞踊協会制定 新人賞、ベストダンサー賞等受賞。ダンスドライブ・ゼロ主宰。dancedrivezero.com



生水敬一朗 (Bandoneon)

石川県加賀市出身。埼玉大学教育学部音楽専修を作曲専攻にて卒業。バンドネオンを小松亮太氏に師事したのち、アルゼンチンにて故アレハンドロ・バルレッタ、ウルグアイにて故レネ・マリーノ・リベロの各氏に師事。作曲を鈴木静哉氏、バロック音楽理論及び奏法を岡田龍之介氏に師事。これまでにソロCD「バロック&バルレッタ」、ヴァイオリンとのデュオCD「コントラプント」、バンドネオンデュオCD「展覧会の絵」をディスクラシカジャパンよりリリース。2018年、加養浩幸指揮・土気シビックウインドオーケストラと山下康介、松浦伸吾各氏の委嘱作品を録音しリリース。2021年には自身のユニット「Tres Patatas」の1st CD「碧空に雲を引く」をリリース。ソロ演奏を中心に、クラシック音楽にけるバンドネオンの可能性を追究し、演奏活動を展開している。



ジドレ・ヴァイオリン (Violin·Zydre Ovsuikaite) 2021年度金沢市民芸術村レジデント・アーティスト

リトアニア生まれ。国際的な音楽活動に対してリトアニアのD.グリバウスカITE大統領(2015年)とG.ナウセーダ大統領(2020年)から、国際デビューの成功と功績に対する賛辞を公式に受ける。第7回あおによし音楽コンクール奈良(グランプリ)、第7回S.ヴァイニユナス国際室内楽コンクール(第3位、S.ヴァイニユナス作曲作品ベスト・インタープリテーション特別賞)など、国内外の数多くの国際コンクールで上位受賞。また、ダボス音楽祭(2021年)のダボス・カメラータ、セント・クリストファー室内管弦楽団(2016-2017年のシーズン)ではコンサートマスターを務める。現在は、2021-2022年シーズンの金沢市民芸術村のアーティスト・イン・レジデンスとして活動。